

国語科学習指導案

日 時 平成28年6月2日(木) 公開授業 I
学 級 岩手大学教育学部附属中学校 1年B組
会 場 1C2A教室
授業者 中村正成

【学習者の実態】

【身に付けさせたい力】

○「オオカミを見る目」では、説明的文章における「序論・本論・結論」の構成と、それぞれにどんなことが書かれるかを学習した。また、筆者が読み手に分かりやすく伝えるために、「問い」「答え」「筆者の考え」という構成をしたり、接続表現などを用いたりして工夫をしていることを学んだ。

◎事実と筆者の考えを読み分けながら、文章の展開をとらえる力。(C-イ)
◎図表の効果や図表と本文との関連をとらえて、書き手の伝えたい内容をとらえる力。(C-エ)
○文末表現などに着目して、事実と意見を読み分ける力。(伝-イ(ウ))

1. 単元名 科学者の説明の仕方に学ぶ

2. 単元の目標 本文と関連させながら図表の特徴をとらえながら、文章の展開の仕方について自分の考えをまとめることができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆図表の特徴を踏まえながら、文章の展開の仕方について自分の考えをまとめようとしている。

【読む能力】

☆事実と推測を区別して文章を読み分け、事実と推測の関連性をとらえている。(C-イ)

☆筆者が図表を用いている意図を本文と図表を関連付けて読み取り、筆者が伝えようとしていることをとらえている。(C-エ)

【言語についての知識・理解・技能】

☆文末表現などに着目しながら事実と考えを読み分けている。(伝-イ(ウ))

4. 学習材 『スズメは本当に減っているか』(東京書籍「新しい国語1年」)

本教材は、近年世間で言われている「スズメが減ってきた」ということに対し、さまざまなデータをもとに科学的に検証しながら順を追って説明していくスタイルの文章である。図表を提示し、それにそって論を展開しているが、その図表から読み取れる事実を盲目的に受け入れて結論付けるのではなく、別の可能性も提示しながら次の図表を提示して次の論に展開していく。そして、最終的に五つの記録(ただし、本文では三つについて詳述)から総合的に判断して「スズメは減少している」と結論付けている。図表と本文を照らし合わせながら読むことで、様々な事柄を批判的に読み、複合的に判断して結論を導き出そうとする科学者としての姿勢が読み取れる。また、一般的な科学論文の書き方とは異なり、客観的事実と主観的判断が入り子になっていることで、読者自身も科学者になったかのように文章に引き込まれる。読者を意識した文章の展開の仕方や書き方においても特徴的な文章である。

5. 単元構想

本単元では、図表を本文と照らし合わせながら読むことで、図表から読み取れる事実と筆者の考えを読み分けることや、読者に興味を抱かせるような筆者の書き方や文章の展開の仕方の工夫を学ぶ。

第一次では、本文を読み初発の感想を書くが、ここでは内容に関するものと文章の書き方や論理の展開の仕方に分けて感想を書かせ、それを交流することで第二次以降の思考へのきっかけとしたい。

第二次では、「オオカミを見る目」と比較させることで、本論の展開の仕方の違いに気付かせたい。また、それぞれの図の特徴をとらえさせるとともに、それぞれの図から読み取れる事実から、どのような理由づけをして事実結び付けようとしているか、その関連性をとらえさせたい。そして、それらをもとに、図の提示の順序の理由を考えさせることで、筆者が読み手に読ませることを意識して文章を組み立てていることをとらえさせたい。

第三次では、筆者の文章の書き進め方について、これまでの学習を生かしながら自分の考えをもたせ文章にまとめさせたい。そして、学習したことがどんな学習活動や生活に生かせるかを考えさせたい。

6. 単元の展開（全6時間）

次	時	学習活動	指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・読・言）
第1次	第1時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 単元の見通しを持つ。 2. 学習計画を立てる。 3. 本文を読み、感想を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・内容に関する感想 ・書き方に関する感想 4. 感想や疑問を交流する。 	<p>○既習事項を振り返らせ、文章の書き方について感想をもたせ、単元の学習の見通しをもたせる。</p> <p>関 本文を読み、既習事項を思い出しながら文章の書き方について感想をもち、交流している。（観察・OPPシート）</p>
第2次	第2時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本論を資料をもとに三つに分ける。 2. 三つの資料を提示した意図を考える。 3. 文章の展開の仕方を図で表してみる。 	<p>○「オオカミを見る目」と比較させながら本論の展開の仕方をとらえさせる。「スズメは本当に減っているか」では、資料を提示するが、その問題点を挙げ、次の資料を提示していく展開の仕方をとらえさせる。</p> <p>読 文章の構成や展開の仕方を学習シートにまとめていく。（学習シート）</p>
	第3時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図から読み取れる事実を確認する。 2. 図からは直接的に読み取れないが、本文を読み取れる事実を確認する。 3. 表1→図1に書き換えた意図を考える。 4. それぞれの図の特徴をまとめる。 	<p>○それぞれの図表について読み取れる事実、本文からしか読み取れない事実をまとめさせることで、それぞれの図の特徴やどのようなときに使いやすいかを考えさせる。</p> <p>読 それぞれの図表から事実を読み取り、その特徴を学習シートにまとめている。（学習シート）</p>
	第4時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事実→理由づけ→考え（推測）の関係について理解する。 2. 図1について、事実と意見を読み分け、その関係性を図にまとめる。 3. 図2について、事実と意見を読み分け、その関係性を図にまとめる。 <p>※ 次時に向けて、「図1→2→3」の順に提示した意図を考える。</p>	<p>○一般的な例を出し、「事実→考え」の間には理由づけが必要であることを確認し、実際の本文の資料からどのような事実を挙げ、そこからどのように推測を導き出しているかを考えさせる。</p> <p>読 筆者が図から読み取った事実とそこから導き出される推測の関係性を学習シートにまとめている。（学習シート）</p> <p>言 事実や考えを文末などに気を付けながらまとめていく。（学習シート）</p>
	第5時（本時）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆者が書いた論文を読み、データの示す順序と本文の順序が異なることを確認する。 2. 学習課題「なぜ『図1→2→3』の順に提示したか」と、前時に考えた自分の意見を確認する。 3. グループでの意見をまとめる。 4. 全体でグループの意見を交流する。 5. 個人で、筆者の意図をまとめる。 	<p>○学術論文の構成と教科書文の構成の違いから、筆者が資料を「図1→2→3」のように展開し文章を進めている意図について、第1時から第4時までの学習や文章の記述などをもとに考えさせる。グループ交流や全体交流を通して、最終的に自分が考えた意図を文章でまとめさせる。</p> <p>読 文章の展開の意図を、文章の記述や資料の特性などを根拠にまとめている。（学習シート）</p>
	第3次	第6時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆者の文章の書き進め方について、自分の意見をまとめる。 2. 意見を全体で交流する。 3. 単元を振り返る。
学習事項の活用場面		<ul style="list-style-type: none"> ・自分が伝えたいことに応じて、図の形態を考えて相手に示して書いたり話したりする。 ・相手や目的に応じて、同じ内容でも順序を変えるなどして書いたり話したりする。 	

7. 学びの本質に迫る指導について

○批判的思考力

学習者は小学校までの説明的文章の学習において内容面にスポットを当てながら文章をとらえることが多かった。本単元では、前単元と関連付けながら説明的文章の書き方を分析し、その文章の展開について自分の考えをもつ。前単元の文章との比較、また論文の書き方との比較を通して、多角的に文章をとらえていくことを期待している。また、事実（根拠）→理由づけ→考え（推測・意見）という思考の流れを整理することで、論理的に思考することの土台を作っていきたい。

○コミュニケーション力

学習者は、4月から新しい人間関係の中で学習を進めてきた。中学校入学後、グループの話し合いの方法や全体での発表の仕方についても学習し続けている。1年生であるということを考慮し、相手に自分の意見を伝えるためにはどうすればよいか、また自分たちの考えが深まるように効率的に話し合いを進めるにはどうすればよいかを考えさせながら授業を進めていきたい。

8. 本時の指導目標

文章の展開の仕方に注目させ、その意図をとらえさせる。

9. 本時の構想

前時に、筆者のスズメに関する論文を提示し、教科書文との構成の違いに気付かせた。そして、教科書の文章ではなぜ「図1→2→3」のように展開しているかを第1時から第4時までの学習を生かして個人で記述させた。本時は、個人での考えをグループや全体で交流し比べることで、筆者が読者に文章を読ませる工夫に迫る時間である。

導入では、学習課題と共に、自分の書いた考えを確認する。

展開では、まず個人で考えたものをグループで協議し、グループでの考えをまとめさせる。このグループは似たような視点で考えをまとめた者同士のグループであり、他の視点で考えたクラスメイトに分かりやすく伝えられるように意見をまとめさせる。このグループ活動は、自分たちの考えをさらに深めていくことを目的としている。グループ活動の後、全体で話し合った内容を交流する。グループで出された意見を教師側でグルーピングし、なぜそのように考えたのかを代表に発表をさせる。場合によっては、他のグループに補足させたり、質問させたりする。この全体交流は、文章の展開について別の視点での考え方を相互に知り、自分の考えと比べさせることをねらっている。

終結では、グループ交流や全体交流を通して自分が考えた筆者の文章の展開の意図をまとめる。前時までの考えとどのように変わったかを確認させながらまとめさせたい。そして、相手に伝えるために、様々なねらいをもって文章を展開していることに気付かせたい。

10. 本時の展開

段階	学習活動	学習内容	時	学びの本質とのかかわり
導入	1. 前時までの学習を振り返る。	【前時までの振り返り】 ・三つの資料を取り上げ、直前の資料で不十分なところを補うような資料を順に提示している。 ・特徴を踏まえて図表を提示していること。 ・事実と推論の関連性。	5	
	2. 論文と本文の展開の仕方の違いを確認する。	・論文では、「図1→図3→図2」のように展開している。 ・論文では、事実をまとめて示してから、考察で資料の不十分なところを挙げている。		
	3. 本時の学習課題を確認し学習の見通しをもつ。			
		【学習課題】 筆者が教科書で図1→図2→図3の順で提示しているのはなぜか。		

展 開	4. 個人の意見を確認し、グループで交流する。	○文章の展開の仕方	15	■コミュニケーション力 <ul style="list-style-type: none"> ・司会者が話し合いをコーディネートする。 ・相手を意識して話す。 ・他者の意見を聞きながら、自分の意見と比べたり、疑問を質問したりする。
	【グループ交流】 <ul style="list-style-type: none"> ①テーマ：自分の考えを交流し、グループの考えを決定し、他の考えの人にも分かるように説明できるようにする。 ②方法：同じ視点で考えた4人グループとする。 ③進め方：役割分担をし、司会が話し合いをコーディネートしていく。 ④帰着点：グループとして、資料の順序の提出の理由を一つにまとめ、説明できるようにする。(収束型交流) 			
終 結	5. グループの意見を全体で交流する。		15	■批判的思考力 <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習や他のグループの考えをもとに多角的に課題をとらえ思考する。
	6. 筆者が「図1→2→3」で文章を展開した理由とその効果を個人でまとめる。	○文章の展開の工夫とその効果 ○相手意識をもった文章の書き方	10	【「図1→図2→図3」のように資料を提示している理由】 <ul style="list-style-type: none"> ○筆者が実際に調べた順だから。 <ul style="list-style-type: none"> →⑥「探してみて、ようやく見つけ出したのが…」(P99L14) ⑩「そこで私は、スズメの個体数と関連付けられる全国規模での記録を探し…」(P101L7) ⑮「そこで、スズメの数の変化を表す別の記録を探したところ…」(P103L6) ○資料の提示の仕方が前の資料の欠けている部分を補うような資料の出し方をしているから。 <ul style="list-style-type: none"> →⑨「一か所の記録にすぎないので…」(P101L1) ⇔⑩「そこで…」(P101L7) ⑭「しかし、これとは別の推測も可能です…」(P103L4) ⇔⑮「そこで…」(P103L6) ○図1が読者にとって身近であり、最も視覚的に分かりやすいものであるから。 ○筆者にとって、資料の評価が並列ではなく、図1<図2<図3のように重要視しているから。 <ul style="list-style-type: none"> →図1：一か所だけのデータなので、これをもって全国が「減っている」とするには無理がありすぎる。 図2：全国的なデータなので、図1よりは重要なデータである。ただし、スズメを直接的に調べたものではないことや、様々な推測が可能であることから図3よりは弱い。 図3：図2同様に全国的なデータであるが、スズメを直接的に調べたデータであること、また、⑰で挙げられている天候不順についても比較的データが出しやすく、確かめることが可能であることから、三つの中で最も強い資料である。
	7. 次時の確認をする。		5	【読み手への効果】 <ul style="list-style-type: none"> ○筆者が実際に調べた順に文章を展開することで、読み手は筆者になったつもりで文章を読むことができ、文章に引き込まれる。 ○前の資料を補う形で次の資料を提示することで、読み手は話の流れをスムーズにつかむことができ、筆者の考え方を追うことができる。 ○初めに図1のような明らかに減っている図を提示することで、「スズメが減っている」という第一印象をもたせることができる。 ○重要度が高いものを最後に出すことによって、「スズメが減った」という印象を読者に強く印象付けることができる。

